

# オオタカの繁殖モニタリング調査報告

オオタカの繁殖状況アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。2008年度は協力者が少なく、少しさびしいデータになってしまいましたが、過年度のアンケートと合わせ、見えてきた結果をご報告します。

## ● 2008年の繁殖成績は平年並み

繁殖に成功した巣の巣立ちヒナ数についてみると、今年は全国平均では2.1羽でした、これは2001年からの平均値と一緒に、今年の繁殖成績は平年並みでした(図1)。また、北ほど繁殖成績が良い傾向は今年も見受けられました。

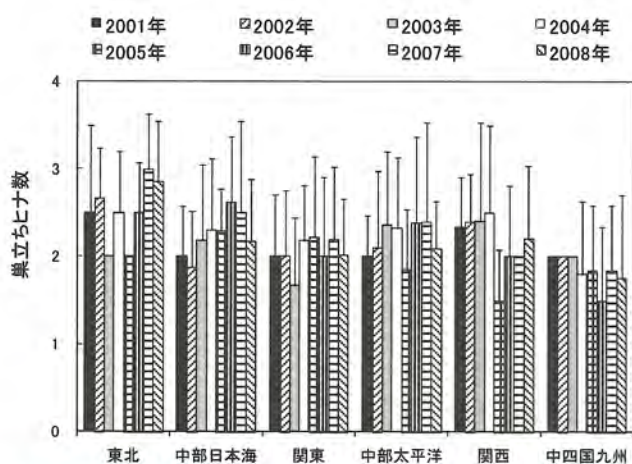


図1 2001年からの地域別のオオタカの繁殖成績。繁殖に成功した巣のみを対象とした。

## ● やはりオオタカは里の鳥

オオタカは里山の鳥で、山の中にもいるけれども、低山から平地にかけての方が好適な生息地なのだろうと言われていました。このアンケートからもそれを支持するような結果が得られています。

繁殖成績を平地、丘陵、低山、山岳に分けてまとめると、平地から低山までは大きな差はありませんが、山岳のみ低い傾向が見られました。また、標高区分でまとめると、標高の高い場所で繁殖成績が悪い傾向はありましたが、地勢の結果ほど明確ではありませんでした(図2)。標高により鳥の生息状況が変化することも報告されていますが、おそらくこの結果は、そのような標高による変化よりも環境の方が繁殖成績への影響が強いことを示しているものと思われます。

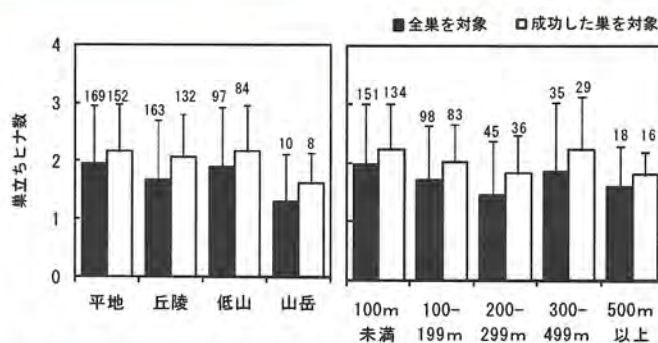


図2 地勢、標高別のオオタカの繁殖成績

## ● 道路に近い方が繁殖成績が良い?

普通に考えると道路に近い場所では人による攪乱が多く繁殖成績が悪いのではないかと思います。それとは逆に道路に近い巣ほど繁殖成績が良いという意外な結果も得られました(図3)。前の節に示したような地勢の影響が反映されて、このような結果が出た可能性もありますし、道路に近いようなところでは、オオタカが採食するのに好適な森林と開けた場所が接している環境が多いのかもしれませんが、その他の要因も考慮して解析してみたいと考えています。

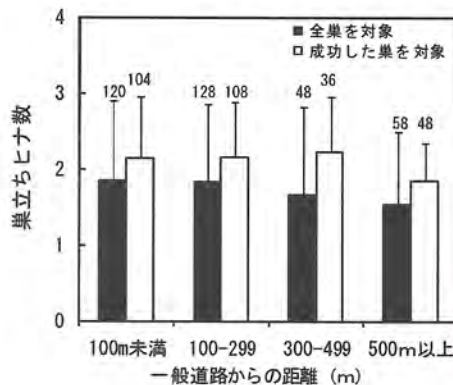


図3 道路からの距離と繁殖成績の関係